

日一十二月一

常磐每日新聞

刊日

定額 一月五拾圓 三月十五拾圓 半年三十拾圓 一年六十拾圓

廣告料 五號十二字 第一行五拾圓 二行十拾圓 三日十五拾圓 五日二十拾圓 七日三十拾圓 十日四十拾圓 十五日五十拾圓 一月六十拾圓 一月以上者 另議

發行所 常磐每日新聞社 平町三丁目北裏(元郵便局裏通り)

電話 六三三番

印刷所 常磐每日新聞印刷株式会社

ドン底の宗教

眞、繼、雲、山

【一】

佛教は因果律を本則とする。それを否認するのを因果撥無の邪見といひ、これを外道とする。善因善果、惡因惡果はひとり、説教師の金科玉條であるばかりでなく、凡そ森羅萬象の一起一伏は原因なくして結果あることなく、また結果なくして原因のみあることはなきゆゑ、因果の道理は現代科學も亦これを承認せずにはあないであらう。看來れば世事ごとく、因果の道のくらまさるゝことはないのであるから、斯く因果の道理歴然たるを不昧因果といひ、これは是れ小乗の極則である。

因果の道は否定すること出来ず、これを信ぜねばならぬが、しかしその因果の道に囚はれてはならぬ。因果の理に囚はるゝのは巧利的な態度である。如何となれば、善事を修して善果を得んといふのは、十錢を投じて十五錢を利せんといふ一種の投資事業、取引行為を豫感するものであつてその念想に慈心ありと思はれないからである。苦を積み、善を修してその果を

他に廻向せんといふをこそ大慈大悲といふべく、善を修して而かも苦果毒果のみ山積し來るとも、笑つて終に悔ひなきをこそ佛とはいふのである。即ち因果の理を肯定するも、因果に囚はれず、因果の道に落ちない

ノート

ネクタイの洗ひ方は、密閉の出来る容器に揮發油を入れ、この中にネクタイを三十分ほどひたして取り出し、乾いてからブラシでよく拂ひ、ゼラチン一枚をぬるま湯一合の割合にとかして霧吹きでしつとりとふきかけ、形をよく直してから白布に包み、二三時間そのままにしておきます。そのあとでアイロンをかけるときにいに仕上ります。

のであるゆゑ、これを不落因果といふのであつて、これは是れ大乘の玄底である三世の諸佛、十萬の菩薩

二明日の献立

【朝】すまし糸こんにやく、おろし生姜

【晝】焼魚、たゞきごぼう

【晚】小田巻むしうどん

海老、芹、推茸

は決して自らの善果を求め給ふものではない。善因を



常磐歌壇

鹽野梅子

この朝雨降り居れば厨べにさんま焼くにはひの室ぬちこもろふ

さんま焼く油の煙いとひい、北戸をくればつめたき風雨ごと入り來つ

雨の朝は心ゆるぶと母そはの小暗き室に朝寝して居り

木村螢秋

たしなはる多賀の山脈夕づきて藍ばむころぞ山はかなしき

朝あさは山を吹きくる風さむし潮の鳴音る西にかた寄る

不景氣收支つづのはすこの鑛山町兒童の退校日におこる

は決して自らの善果を求め給ふものではない。善因を

三河産業博覽會 金牌受賞

昭和産業博覽會

かまぼこ

製造

お徳作

儀式用

お惣菜用

さつま揚

吉原揚

平町一丁目

電話一四一番

花柳病科 専門

木村外科醫院

入院自炊の便あり

平町五丁目橋際 電話三〇九番

御料理 八千代

平町田町 電話三七五番

破魔弓と羽子板を

陳列致しました

御子さまの御祝から

三十二年の不景氣魔を破り?

三十三年の景氣を羽根上ぐる?

○是非御子様の御祝に致しませう

スガノヤ提灯店

平四丁目(電話九五番)

御贈答に 漆器を!!!

記念品に!!!!!!

諸景品に!!!!!!

漆器を!!!

誠實勉強 親切第一 在庫豊富

専門の 共 は

是非御用命を

ドコヨリモ、ヨイシナサ、ドコヨリモ、ヤスクウ

ル、又ルモノミセ

平町三丁目北裏(元郵便局裏通り)

各國産漆器

専門卸小賣

共 漆器店

店員募集 十三才位 小 店員

三十才位 外 交 員

玉屋洋品店

平町田町通電話六五六番

豫告中の發賣品は

満洲よせい

でした.....なべは風味よし味よし○安すし

御來客の御馳走に氣うけよし

自慢の味と○印を!どぞ御試食下さい

御一人前 十五 錢

出前 迅速

せせら

電話六三三番

平全町を擧げて

凱旋兵の歓迎會

在隊者には賜暇歸省を 乞ふて此の席上に招く

平町役場及び在郷軍人分會では聯合して過般多門凱旋師團各隊より除隊となりて歸郷せる町出身者十六名を招待して盛大な歓迎會を催すべく目下協議中であるが大休期日は本月廿九日の午後一時より聚樂館を會場として催される豫定で此際原隊に凱旋目下在營中の町出身兵十餘名も當日の榮えある歓迎會に招かんと目下各隊へ町出身在隊者に賜暇歸省を計られ度いと交渉中である

夏井川改修

上流も下流と

同時に施行を

希むとして猛運動開始

既報石城郡草野村地内六十枚橋より河口に至る夏井川改修工事は七年度豫算十萬圓の國庫補助を得總工費四十萬圓の巨款工事として昨年十月より着工草野、夏井高久等の村民を濡はして居るが同河川工事は次第に上流沿岸たる平窪好間赤井小

山林保護の

功勞者表彰

廿八日の總會に

平署管内山林保護組合の總會は来る廿八日午前九時より平署會議室に於いて、

事業豫算其他を協議し終つて優良組合並に組合員の表彰を行ふが當日表彰される

夫、高萩俊雄(柳山屋)長瀬政信(江田)佐藤三男、齊藤徳二(横川内倉)田久小次郎、國井熊男(上下小川)白井清治、柳内松良、大森友三郎、草野一男、佐藤羊夫、吉田富男、松本豊(鹿島)鈴木文雄、箱崎憲一、小野久枝、小松源一、四家義(夏井)若松時夫、鈴木國保、山崎喜八郎、矢吹幸輔、渡邊秀保、富屋延譽(飯野)鹽波與四郎、速藤喜快、佐藤泉一、山野邊定之助、鈴木喜吉、山崎雄太郎、須藤榮(神谷)宇佐見直保、鈴木利三郎、鈴木義保、鈴木兼太郎、佐川道太郎、木村徳次郎、佐藤重男、鈴木義久(平窪)吉田佐一、立澤和養、坂本政喜、小野廣市、松本嘉久、林末代司、金成雅義

平商の査閲を

吉富少將視察

平商業學校軍事教練査閲は来る二十七日午前八時より既記の如く若松二十九聯隊歩兵中佐若生清氏に依つて執行されるが當日は第二師團司令部付吉富少將が視察に來られるので査閲終了後職員生徒一同にて會食をなし懇談會を催すと

磐女校の

健康診断

磐城高等女學校にては本日健康診断を行つたが受診希望者は十九名にて二三名の胃病患者あつた外は全部健康体であつたと

内郷村で

除隊兵歓迎

石城郡内郷村では去る十九日村會を開き協議の結果除隊兵の官民合同歓迎會を來る廿六日村役場に於いて盛大に舉行する事になつた

販賣利用

けふ總會

石城販賣利用組合總代會は本日午前十時より丸友ホール樓上にて開會組合定款の變更幹事の改選其他を附議した

錦村蒔蒔栽培

錦村農會主催の蒔蒔栽培講習會は本日午前九時より同小學校に於いて開催さ

れ講師として農業技術員米山技手が出席した

併合記念

記念碑建設

飯野小學校で石城郡飯野村小學校では第一第二兩校の併合十周年記念として近く校庭に記念碑を建設すると尙同校は増築に迫られ伊藤村長村議の一行が草野校平第二第三校舎を視察した

火防聯合組織

既報平町火防聯合會第一回の總會は昨日午後一時より丸友ホールに於いて開會規約制定後役員選舉を行つた結果左の如く決定した

平倉庫の販米

石城販賣利用組合平農倉庫の共同販米は廿日午後一時より行はれ五等米六十七俵、等外百四十八俵を入札に附した結果五等一俵八圓四十六錢を以つて全部神谷村片寄保氏に落札された

航空生を募集

遞信省航空局にては本年度航空機々關生を募集するが試験科目は算術、三角、代數、幾何、製圖、邦語、英語、

學校の聯合提携に 教務主任會を組織

昨日の校長會決定案

昨日午前十時より平第一小學校に於て石城郡第三區小學校長會を開いた結果同區内各校の連絡提携を圖り教育の向上を期する目的から教務主任會を組織し來る二十四日午前十時より平第一小學校に於て第一回總會を開く事になつたが必須事項は左の如く會長には會我直治氏が就任すると

一、教務に關する事務の研究
一、教材及び教授の研究

女生徒の

共同作業

校外内の清掃

平第二小學校自治會にては共同作業として毎週土曜日放課後校外内外の大掃除を行ふ事になつたと

物理、化學等にて來る四月一二の兩日所澤飛行學校に於て施行する因に志願者は三月廿日迄に航空局宛に志願書提出されたしと

平町人事

回出生

△正月町八黒崎明雄氏四男 孝男
△仲間町八一阿部精一氏三
○石城郡飯野村字諏訪下
十國府田キク二三

回婚

斯界の權威!!!
大塚の靴
自生編上靴 六圓
學生靴 女學生半靴 五圓
紳士靴 流行新形
平田町
大塚製靴部
電話七七番

大塚の靴

平一
食事
喫茶

平一
食事
喫茶
電話四六番

女闘士丹野セツ子

母の涙で改心

今は全く悪夢から覚めて

控訴を取下げ獄則を守る

第二次日本共産黨事件に連座した唯一の女性石城郡小名濱町字中島生れ丹野セツ子(三)は郷里に近い仙臺刑務所に收容されるであらう

東京市豊島區集鴨町小幡シゲ方より現金五十圓及び勸業十圓債券四枚を窃取し同所下宿人荒井マサ子と共に逃走し大野村玉山嶺泉に宿泊中捕れた窃盗事件の公判は本日平區裁判所に於て竹内判事係り上田検事立會の下に開廷され事實取調べの上検事より懲役一年六ヶ月

今晚の部
後六、〇〇 子供の時間
童謡とピアノ 福島縣師範學校附屬小學兒童ピアノ
伴奏清野健
後七、一〇 御製御歌の奉頌
歌御會始の御模倣 宮内省御取所寄、千葉胤明
求刑されたが言渡しは来る二十三日であると

外
後八、三〇 薩摩琵琶
「楠正成」本榎芝水
後八、五〇 連続浪花節
「南山血染の聯隊旗」
(第二席) 東家樂燕
後九、三〇 満洲より
後九、四〇 全國ニユース
象氣通報 番組豫告

明日の部
前九、一〇 餐養料研究所
肉ボール 餐養研究所
前九、三〇 子供の時間
管絃樂 豊島交響樂團
前一〇、〇〇 運動競技
「第六回全日本學生スキ
ー競技大會状況」長野縣飯山神明ヶ丘より中継
前一一、〇〇 二元放送東
西高段者團(二)
後一〇、五〇 琵琶「大門口」
二本松町 藤錦報
後一一、二〇 放送舞臺劇
「假名手本忠臣蔵」中村福助外

後二、五〇 清元一進行浮
時鶴 清元延葉滿榮外
後四、二〇 大相撲春場所
状況
後六、〇〇 子供の時間
お翠 平野登子外
後六、三〇 講演「社會事
業を通じて」救世軍日本
本營調査課長山室民子
後七、三〇 人情噺「おが
め團子」柳亭燕三郎
後八、〇〇 常磐津舞臺劇
夜討會我 常磐津舞臺太
夫外
後八、三〇 詩吟
後八、五〇 連続浪花節
「南山血染の聯隊旗」終席
東家樂燕

深更青沼町長が

火防屯所を巡回

實際の状況を視察して

町内守護の精勵に感謝

平町の各區火防組合は舊歲末と共に火防の傍ら鼠賊等の横行に備える爲め毎夜出勤して

町民を是等の恐怖より解放し各受持區守護に任じ夜明け迄大努力を繼續して居る此の精勵振りを聞いて感謝しつつある青沼町長は繁忙中の身に拘らず近く

町内守護の精勵に感謝
郡山市會議事堂の縣聯合婦人會創立大會に平町人會を代表して出席の爲め今朝平發五時四十分にて出發され

平小賣米値下

連日の軟調子續いて

平地方に於ける産米相場は一時九圓臺迄に騰貴を見たが漸次軟調子を辿り舊正月の切迫と共に各農家の持米投資りに崇られ現在では五等米一俵八圓三四十錢を前後し尙値下りの氣味を呈して居るので平町米穀商組合では昨廿日より白米各等一

平裁判たより
既報平町材木町十四番地金貸業鈴木淺之助(三)は舊臘中債務者の家へ暴れ込み住居侵入器物毀棄罪として平區裁判所に於て罰金四十

二阪農事傳習 石城郡三阪澤渡組合村農會では來る廿五日午後一時より村役場に於いて農事傳習會を開會する

回人を求める方
△出前持 二十一才 尋卒
給料面談(平町某食堂)
△女中 五十迄 尋卒
△魚屋雜夫 二十五才 尋卒
△給仕見習 十九才 尋卒
△給仕見習 十九才 尋卒
△小使 六十才 高卒 給料面談(平町某)

偽大學生 懲役求刑

既報北海道室蘭市榮町八十九番地生れ目下住居不定前科四犯谷山義道(三)が大學生に化けて昨年十一月下旬

曾つて行はれた事の無い町長の屯所歴訪は反面に於いて組員を鼓舞激勵す

古河健保係員 石城郡好間村古河炭礦健康保險組合では來る廿二日午後一時より同礦自治會館に於て係員選舉を行ふ事になつた

平裁判たより
既報平町材木町十四番地金貸業鈴木淺之助(三)は舊臘中債務者の家へ暴れ込み住居侵入器物毀棄罪として平區裁判所に於て罰金四十

回人を求める方
△出前持 二十一才 尋卒
給料面談(平町某食堂)
△女中 五十迄 尋卒
△魚屋雜夫 二十五才 尋卒
△給仕見習 十九才 尋卒
△給仕見習 十九才 尋卒
△小使 六十才 高卒 給料面談(平町某)

回人を求める方
△出前持 二十一才 尋卒
給料面談(平町某食堂)
△女中 五十迄 尋卒
△魚屋雜夫 二十五才 尋卒
△給仕見習 十九才 尋卒
△給仕見習 十九才 尋卒
△小使 六十才 高卒 給料面談(平町某)

回人を求める方
△出前持 二十一才 尋卒
給料面談(平町某食堂)
△女中 五十迄 尋卒
△魚屋雜夫 二十五才 尋卒
△給仕見習 十九才 尋卒
△給仕見習 十九才 尋卒
△小使 六十才 高卒 給料面談(平町某)

金葉山齋

【禁轉載上演及映畫】

悟道軒 圓玉 演
近藤 紫雲 畫

第二百四十八席 千葉 周作 (3)

飛込んだ居酒屋

佐吉は部屋頭の三郎兵衛から三兩受取り

佐「それでは行つて参ります」

三「寒いところを御苦勞だナ、早く歸つて来いよ一杯飲ませるから」

佐「ヘエ有難うございませす」

日の暮に邸を出た細川家の法被を綿入の上に着て三尺をしめ紋羽の頭巾を冠り吾妻橋を風に吹かれながら渡りあれから、三谷に來て南千住にかゝり橋を渡る竹の塚孫八と聞くと直に知れた、そこで部屋頭の伯母さんに三兩届け

佐「わたくしは使ひのものです、ござんすから受取を頂きます」

伯「ハイ、少し待つてゐて下さい、今夜は爺さまがかねえでわしでは書く事が出來ませんでの背戸の源右衛門さんに頼んで來ますから」

と出て行つたがしばらくすると受取書を持つて來て伯「これでようございませすか」

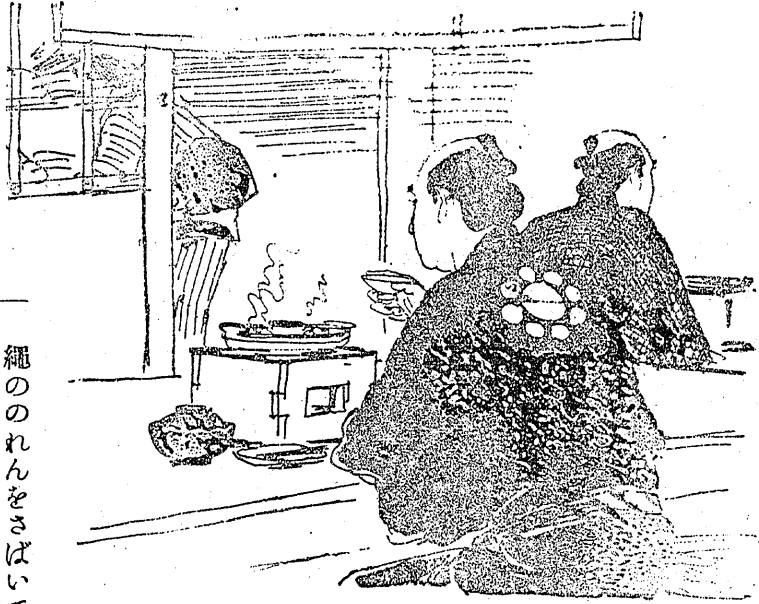
佐「ヘエ結構でござんす」と云ひながら見ると、金

三兩也受取申候事實正也此後異存等申す間敷後日の爲依つて件の如し、これでは離縁状のやう

オウ冷てえ顔が切れるやうだ、何刻だらうナ、まだ十時にはなるめえが、寒いな提灯に一ツもあはぬ寒さかなといふ句があるが往來するものもねえやうだ、オウ寒イ〜」

と急ぎ足に大橋を越えて半丁ほど行くと右側に居酒屋がある、油障子に有合せ肴上酒めし——と大きく書いてある、バタ〜いふウチの音が聞こえて流れ出した鍋の音

佐「うまさうだな、よい匂ひがするぜ、一杯飲んであつたまつて行かう」



伯「別段に用もございませんが春になつたら遊びに來うとさう云つて下せえ、その時にはお前さんも一緒に來なせえ、そばでも打つべえ」

繩ののれんをさばいて入る、土間には綠臺が四ツ列びこれが食卓の代用、醬油樽が椅子の代り、四五人飲んでゐる、天井には八間が下つてゐるぼんやりあたりを照してゐる、佐吉は隅の方の綠臺を〜にして腰をおろし

女「湯豆腐で一升つけておくれ」

と云つたが聞いたやうな聲だ、料理場を見たがよくわからぬ、その内に小女が湯豆腐で酒を持つて來た

佐「それからねえさん何ぞ温かいものを持つて來な」

女「はんべんのお汁がございませす」

佐「ウンそれがいい、おつけに湯豆腐ならば毒にならねえ」

女「ハイさうでございませす、只今持つて参ります」

間もなくおつけが來た

佐「こんな處で酒を飲まうとは思はなかつた、人の行く末はわからねえものだナ此間チラリと聞いたには勢力は夏目の金比羅山で榮助と共に死んださうだ、惜しい男を殺したナ、それについて思ひ出したが親分の姐御はどうしたらう、一生をまかせると亭主には別れ頼りに思ふ子分にはチリ〜、又姐御と親分の間には子供もねえ、而し親分が残していつた金地もあり、十一屋といふ家號で旅籠屋もあり、それを守つてゐれば困る様な事はあるめえ、しかしさみしいだらうナ」

女「おかめや、鍋は此處に出來てゐるよ」

と云つたその聲を聞いて佐吉が再びそれへ目をつけると、手拭を冠り襷掛けで小女に鍋を渡してゐるは親分繁藏の女房、佐吉はびつくりした

不思議な事があるものだ、この居酒屋の内儀さんが姐御とは思はなかつた、國を何時出て來たか、又一生困らぬやうな身代がありながら親分の墓をすてゝこんな所で居酒屋をしてゐるとはどうも妙だナ、定めし亭主もあるだらうどんな男か」と隅の方で酒を飲みながら目をつけてゐると

○「今夜は寒いナ、なんだせ二三日内に雪だナ」

と云ひながら手拭をさげて裏口から入つて來た、その人を佐吉が見て

平町二丁目

三井タクシ

電話六八五番

上田 外科醫院
平町 痛町
電話二二九番

中村齒科醫院

平町 鍛冶町七

外科 X 光線科

性病科 科 院 入 意 隨

平町 田町
安齊外科醫院
電話四七五番

江戸前料理 會峯

御祝儀 御法事の御料理
多少に拘らず御用命下さい
▼出前！迅速！▲

錦 水
電話四五四番

平新川町十九

木村病院

電話一六四番

産婦人科 院長 木村寅次郎
婦人科 院 長 木村寅次郎
産人科 院 長 木村寅次郎
内臓外科 醫學士 内 木宗八
整形外科
器泌尿科

耳鼻咽喉科専門

氣管食道科

平南町 (電話一七〇番)
九和田醫院